

「知床牛」が挑む！和牛本来の価値創造と世界展開

株式会社カネダイ大橋牧場（大空町）



知床牛(黒毛和牛)

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ (株)カネダイ大橋牧場は、先代社長の時代から黒毛和牛の肥育を手がけ、2004年に「知床牛」を商標登録。
- ◆ 大橋社長(3代目)は大学卒業後、京都の精肉店に勤務。神戸ビーフを扱う中で「知床牛」の可能性を確信し、「日本一美味しい和牛づくり」を志して、2017年に牧場経営を継承。
- ◆ 輸出向けには、国内最高水準のA5格付けを目指した肥育を実施。一方、国内向けの一部の雌牛は、40か月齢以上の長期肥育により、格付けにとらわれず、肉本来の美味しさを重視した「特別肥育知床牛」として生産。
- ◆ 粗飼料は全て北海道産とし、赤身の味、脂の風味・口どけ、旨味の余韻と深みを追求。
- ◆ 2018年頃から牛肉の輸出を開始。台湾を主力市場として、UAEやカタールなどのイスラム圏にも販路を拡大。
- ◆ 2022年、町内に直営の精肉店「肉将(にくしょう)」を開店。
- ◆ 2025年、札幌市内に直営の焼肉店「和牛焼肉しんちゃん」を開店。

【取り組む際に生じた課題等への対応】

- 和牛の評価・格付け制度への問題意識
 - 国内外では「A5ランク＝美味しい」という認識が浸透。「格付け」は歩留まりやサシの量を重視しており、和牛本来の美味しさと必ずしも一致しない。
 - 海外市場では、「知床牛」も数ある和牛ブランドの一つとして扱われ、生産者のこだわりや肉質の違いが十分に評価されにくい。
- ⇒ マレーシアや香港での和牛販促活動に参加し、格付けではなく味の本質を伝える取組を進めている。

【組織等の概要】

- 会社名：株式会社カネダイ大橋牧場
- 所在地：大空町東藻琴344-16
- 代表取締役社長：大橋 遼太(3代目)
- 設立年：1978年
- 主な事業内容：和牛の繁殖、肥育、加工販売、焼肉店経営等
- 飼養頭数：黒毛和牛：約1,500頭、乳用牛（ホルスタイン種）：約500頭
- HP URL：<https://shiretokogyu.com/>

【取組の成果】

- 継続的な販路拡大により、現在では売上の約8割を輸出が占める。輸出量は輸出開始当初と比較して約5～6倍に増加。
- ハラル認証(※)に対応した食肉処理施設を活用し、中東市場への販路を拡大。
- 将来的な海外事業展開を見据えて、インドネシア人材を積極的に採用。
- 2022年、EXILEのSHOKICHI氏との共同プロジェクトで純血但馬血統の「八将牛(はちまさうし)」の生産を開始し、販路を拡大。

(※)イスラム教の戒律に適合した認証。

【今後の展望】

- 輸出に係る販売・物流・取引管理を自社で一貫して担う体制を構築。
- A5格付けへの過度な依存から脱却し、独自の格付け・評価基準を作ること、本来の美味しさや肉質が正に評価される世界を実現。



「知床牛」商品を取り扱う直営店舗（大空町）